

タイヤ単体騒音対策検討会（第1回）議事要旨

1. 日時 平成21年11月11日（水）16:00～18:00

2. 場所 金融庁全省庁共用会議室 1114号室

3. 出席者

【座長】 金子 成彦（東大）

【検討員】 石濱 正男（神奈川工科大）、大野 英夫（自工会）、坂本 一朗（交通研）、
中島 幸雄（タイヤ協会）、溝上 喜美男（自工会）、山本 貢平（小林理研）、
押野 康夫（JARI）

【オブザーバ】 小西 哲（タイヤ協会）

【関係省庁】 鷺坂局長、岩田室長、多田室長補佐（環境省 水・大気環境局）
小田課長、平井課長補佐（国土交通省 自動車交通局 技術安全部 環境課）

【事務局】 （財）日本自動車研究所

4. 議題 タイヤ単体騒音導入の検討の進め方について

5. 座長選出

金子検討員が座長に選出された。

6. 議事（要旨）

実施計画は概ね承認されたが、以下のような指摘があり、対応することになった。

- ・ 資料1-2のタイヤ騒音の発生メカニズムの記載については、引用文献を示すこと。
- ・ タイヤ単体騒音試験法（ECE R117）の説明において、詳細が省かれているため分かりにくい。用語の説明、計算式の概略等を追加すること。
- ・ 実測調査のデータ（ECE R117と定常走行騒音の比較など）については、今年度実施する商用車のデータに加え、前年度実施した乗用車の結果についても、併せて報告すること。
- ・ タイヤ単体騒音規制を導入した場合の道路交通騒音低減効果を予測するためのモデルとしてJARIモデルを使用することになった。その前提として、他のモデルに対するJARIモデルの位置付けを明確にしておくこと。
- ・ 道路交通騒音の予測対象とする場所は、環境基準の達成率を考慮して近接空間（道路沿道）のみとするのが適当である。
- ・ タイヤ単体騒音の測定はISO路面で実施することになるが、一般路とは性状が異なるため、騒音も異なると考えられる。道路交通騒音のシミュレーションを行う際には、ISO路面に対する一般路面の位置付けを明確にしておくこと。